



# 鋭い洞察力を備えた 国際協力の専門家を養成

## 仕事帰りに学べる 男女共学の夜間大学院

「多様な海外ボランティア活動を実施しているNGOや、国際的な組織で活躍できる教養豊かなスベリヤリストの養成」を目的に、2003年4月、従来の社会科学研究科が国際協力研究科として生まれ変わった。

アクセス至便な六本木にキャンパスを置く男女共学の大学院で、社会人が働きながら学ぶように、授業は平日の夜間および土曜日の昼間に開講されている。4月と10月入学のゼミスター制や長期履修学生制度を導入しているため、職場の事情に合わせて入学時期や修了時期を選べることができる。

また、経済、国際関係、政治外交、地域研究と各分野から著名、かつ経験豊富な指導者が集合。院生の勉学意欲に応えていく。

## 国際協力のあり方を 社会科学的・実践的に探求

「国際協力」とひと口に言っても、開発の領域をはじめとして実にさまざまな分野がある。

本研究科では、国際協力における問題を国際社会領域と国際協力領域の2つの視点から社会的科学的かつ実践的に探究する。また、日本としての国際協力のあり方を研究するために、共通領域科目群には基礎科目と地域研究科目があり、それぞれの領域に相応しい専門科目が置かれ、理論的知識を学ぶ一方で、ワークショップ科目、特殊講義、さらに国際協力領域ではインターンシップやフィールドワークといった実習も配置されている。研究の集大成となる修士論文指導は1年次後期から履修可能となっている。

■「研究プログラム制」の導入  
また、本研究科では研究プログラム制を導入している。

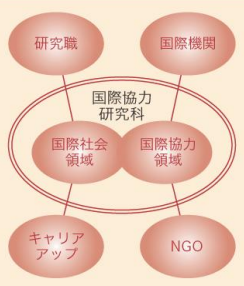
国際社会領域では、研究職系履修プログラムとキャリア・アップ系履修プログラム、国際協力領域では、国際機関履修プログラムとNGO系履修プログラムがある。

以上のように各領域には2つのプログラムを設け、それぞれの進路に相応しい科目選択が可能になっている。このようなプログラム履修制度のほかに、科目等履修生制度があり、一定期間に選択した各プログラムの履修科目が、入学後の修士課程履修単位として10単位まで算入できる制度もある。

■視野を広げるオムニバス講義  
NGOやNPO、国連職員など外部から毎回異なる講師を招いて行われるオムニバス講義も好評を得ている。

参加することの喜びと国際協力の厳しい現実、その問題点や改善のための提言など、講師の豊富な体験談を通して視野も広がり、NGOを志す院生にとっては有益なプログラムとなっているのも見逃せない。

## 国際協力研究科の 進路別履修モデル



## 実践・実習重視の教育で、国際舞台で活躍できる人材を育成



吉川健治准教授

### 働きながら学ぶ学生をバックアップ

東洋英和女学院大学大学院国際協力研究科は、社会人と学部新卒者の両方を対象とした男女共学の大学院です。特に社会人が働きながら学ぶための環境づくりに、力を注いでいます。

校舎があるのは、交通の便がよい東京・六本木。授業は、平日の夜間と土曜日の昼間に開講されています。

また学部時代に社会科学を専攻していなかった学生のために、「社会科学基礎特論」や「研究手法ワークショップ」など、社会科学についての基礎知識を身につけるための基礎科目も設置しています。

大学院生にとって一番大変なのは、何と言っても修士論文の作成です。国際協力研究科では、1年次から論文のテーマ設定や構成についての指導をスタートさせ、2年がかりで論文を仕上げいきます。定員が25名と少人数であることもあり、指導教員が学生一人ひとりをきめ細かく指導できる体制を整えています。

ちなみに仕事の都合などで、2年間で修了するのが難しい学生のための、3～4年かけて履修を終

える長期履修生制度も設けられています。

### 実践・実習を重視したカリキュラム

国際協力研究科のもう一つの特徴が、実践や実習を非常に重視していることです。「国際協力インターンシップ」という科目では、NGOや国連機関に体験就業をすることで、現場の状況や課題と可能性をつぶさに知っていただくことを狙っています。また「国際社会ワークショップ」では現代国際社会の焦点の課題を検討し、「国際協力ワークショップ」では、国連の専門機関やNGOで働いていた方に来ていただき、直接講義をしてもらっています。

こうした科目は、将来国際協力分野に進みたいという学生にとっては、非常に魅力的なことでしょう。実際、授業を通してNGOや国連機関とのつながりができ、ボランティア活動に参加したり、インターンとして働きはじめたりする学生も少なくありません。

また実は私自身もそうなのですが、常勤、非常勤の教員の中には、NGOや国連機関出身者がいます。現場を熟知した教員スタッフが指導しているのも、大きな強みといえます。

### 入試では、学ぶ目的や意欲を重視

国際協力研究科を志望する学生の中には、出願前に「もっと専門的な知識を得てから、受験したほうがいいのでは？」などと、迷っている方もいるようです。しかし私たちが入学段階で一番重視するのは、研究計画書や面接を通して、「志望動機や研究計画の明確さ」「大学院での学びの経験を、将来どう活かしていきたいのか」といった、学ぶ目的や意欲を最重視します。

今、国際協力に求められている人材は、土台となる知識を持ちつつ、多角的視点から問題の分析と解決策の提示ができる人物です。こうした能力は国際機関への就職を考えている人だけでなく、今の職場でキャリアアップを図りたい人にも必要なものです。国際協力研究科には、国際政治・経済・社会、地域研究、国際協力に関する幅広い科目が揃っています。またレポート作成等を通じて、体系的、論理的に物事を考え、表現する訓練を徹底して行います。まさに今求められる人材を育てるための教育内容となっているわけです。

働きながら学ぶ学生にとって、2年間の学生生活は決して楽なものではないでしょうが、教員が丁寧にサポートしていくことを約束します。みなさんとお会いできる日を楽しみにしています。

※注

『日経大学・大学院ガイド2009年春』の原稿をもとに作成しており、実際の出版物とは異なります。東洋英和女学院大学大学院